



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/7 (月)	+ 600	▲ 5,900	▲ 5,300	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	国債補完供給 + 12,700	国債買入 + 700	
11/8 (火)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000				日: 景気先行CI指数 (9月) 景気一致指数 (9月) 欧: 1-0圏小売売上高 (9月)
11/9 (水)	トン	+ 1,000	+ 1,000		共通担保 ▲ 10,300		日: 国際収支 (9月) 貿易収支 (9月) 米: 卸売在庫 (9月)
11/10 (木)	▲ 1,000	▲ 18,000	▲ 19,000	国債発行 (30年) 国庫短期証券 発行・償還 (6M)			米: CPI (10月) 欧: ECB経済報告
11/11 (金)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				日: 国内企業物価指数 (10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、495兆3,100億円から始まった。その後、1日の財政等要因や2日の税保険揚げおよび国債発行により490兆1,100億円まで減少したものの、週末となる4日には国債買入れオペがスタートし、491兆3,400億円を越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、月末によって資金調達を控えた先が散見されたため、前営業日比△0.010%となる△0.062% から始まった。その後は調達ニーズの強まりも見られ、週を通して同金利は緩やかに上昇し4日には△0.054%となった。

ターム物は10月積み期内の1~2W物を中心に△0.060%~△0.045%のレンジで取引された。

来週の主な予定として、国内では8日に景気先行CI指数 (9月) および景気一致指数 (9月) の公表、11日に国内企業物価指数 (10月) の公表が挙げられる。海外では10日に米CPI (10月) よびECB経済報告の公表が挙げられる。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週初△0.09%で始まり、週央まで同水準で推移した。短国3Mの入札があった週末は△0.08%台で多く取引された。SC取引は2年435~442回債、5年146~154回債、10年350~368回債、20年179~182回債、30年65~76回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

<CP>

今週の入札発行総額は約2,200億円で、週間償還額 (約2,000億円) を若干上回った。発行市場は、営業日数が少ないため、週を通して案件が少なく、落ち着いたマーケットとなった。発行残高は先週末の26兆3,762億円から、2日時点で26兆3,451億円と若干減少した。市場残高は引き続き高水準で推移しており、発行レートは、0%から小幅なプラス圏での出合いが中心となった。

来週の週間償還額は、約5,100億円となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されるため、活況なマーケットを予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅広いレンジ圏での出合いを予想する。10日に、CP等買入オペが4,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

11月4日の3M1118回債の入札は、最高落札利回り△0.1079% (前回債△0.1265%)、平均落札利回り△0.1176% (前回債△0.1381%) となった。来週は9日に6M (1119回)、11日に3M (1120回) の入札がある。